

当社における実務実習カリキュラム

はじめに

平成22年から薬学生の長期実務実習がスタートするにあたって、実務実習モデルカリキュラムを基にして現時点での当社のカリキュラムを作成した。これから多くの変更は予想されるものの、当社独自の特色を取り入れたカリキュラムがあることにより、
①実習生に対してより効率的な指導ができる。
②カリキュラムの作成に参加することで実務実習に対する知識の再確認ができる。
③指導薬剤師以外の薬剤師も実習生に対して均一に対応できる。
④カリキュラムにより新しく入社した方への教育にも有用である。
などの利点があると考えられこのカリキュラムをまとめた。

経過

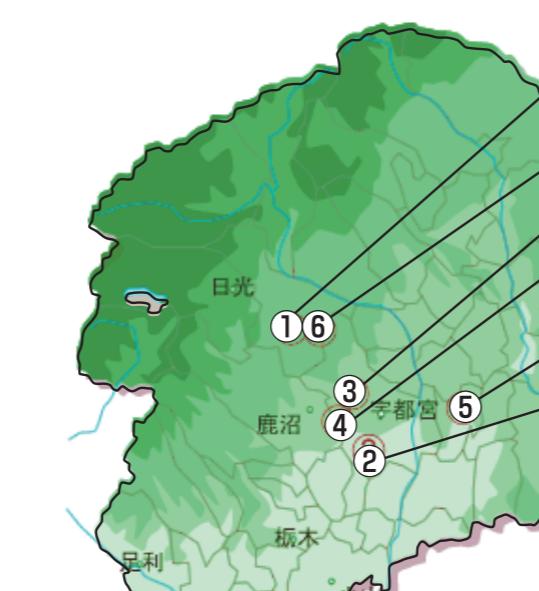
社内の有志により委員会を立ち上げ、県内当社薬局によるグループ化での対応をしようという意見があった。各店舗が多く処方箋を受け入れている医療機関の診療科を中心に得意分野を受け持ったほうがより充実した指導ができると思われたので、その考えに沿って指導内容を割り振り、また各診療科に特徴のある薬剤についても重点的に指導しようという意見も取り入れることになった。

研修内容の割り振り

まだ決定はしていないものの現在までのガイドラインに沿って指導すべき内容について、可能であれば各薬局に割り振ったらしいのではという意見があり、各店舗がメインで受けている医療機関の診療科の処方内容などを鑑みて指導内容を割り振りした。

県内6店舗と関連診療科

栃木県内には6店舗あり各薬局が主に処方箋を受けている医療機関の診療科を示す
①今市店……内科、外科、脳外科、婦人科、泌尿器科、整形外科、循環器内科（&眼科を担当）
②清原台店……内科、消化器科、小児科
③一の沢店……整形外科、外科、胃腸科、内科、麻酔科
④飯田店……精神科
⑤高根沢店……内科、外科、小児科、産婦人科、歯科、整形外科、放射線科（&耳鼻科を担当）
⑥並木店……内科、外科、整形外科、皮膚科



全体としての指導計画

最初と最後には教育指導責任者のいる店舗に入つてもらい、薬局アイテムの流れ、薬剤師の心構え等、分担しない項目については主になって指導してもらい、他店舗においても補助的に再指導するものとする。各店舗においては1~2週間ずつ入つてもらい、担当する指導内容を集中的に指導するものとする。

今市店の指導計画 薬局実習方略

(1) 薬局アイテムと管理

《薬局製剤》

項目	到達目標	学習方法	時間	指導内容
P103	◎代表的な薬局製剤・漢方製剤を調整できる。	実習	90分×2	・生薬からの簡単な調整

《特別な配慮を要する医薬品》

P105	◎麻薬・向精神薬などの規制医薬品の取り扱いについて説明できる。 ◎法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）	説明・見学	90分	・麻薬を仕入れた時の麻薬譲受証、麻薬譲渡証の記載方法の説明。 ・麻薬の入出庫の数の記載、数のチェック確認。 ・麻薬伝票の保管方法を説明。 ・年1回9月末締めで保健所に提出する麻薬年間届の記載方法を説明。 ・備え付けの金庫を見学、金庫の閉鎖を実際に体験してもらう。
------	--	-------	-----	---

《(3) 薬局調剤を実践する》

《計数・計量調剤》

P311	◎1回量（1包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。 ◎1回量（1包化）調剤を実施できる。（技能）	説明・実習	90分	・処方箋、薬歴簿をもとに1包化調剤の必要性を説明。 ・錠剤自動分包機を実際に使用してもらい、患者様のニーズにあった1包化の調剤（DETACHABLE TABLET ADAPTERの使用法）。 ・メルフィンの監査画面からによる1包化の調剤。 ・散薬分包機による、散薬、錠剤の完全1包化の調剤。
------	--	-------	-----	--

《(4) 薬局カウンターで学ぶ》

《一般用医薬品・医療用具・健康食品》

P404	◎セルフメディケーションのため的一般用医薬品・医療用具・健康食品などを適切に選択・供給できる。（技能）	演習	90分×5	医療用具 イレファインド（人工肛門）・Y字ガゼ トライアルG1号・延長チューブ付三 ニプロ経腸用輸液セット ニプロカテーテルシリング 検査食 コロノスーパー（大腸検査食） 以上を実際にみてもらい、取り扱い方を学んでもらう。
------	---	----	-------	--

・今市店の特徴的な薬としては、受入れ料として複数ありますが、その中でも循環器系の薬が種類も多いためその薬を集中的に指導します。

清原台店の指導計画 薬局実習方略

(3) 薬局調剤を実践する

《計数・計量調剤》

項目	到達目標	学習方法	時間	指導内容
P313	◎散剤、液剤などの計量調剤ができる。 ◎調剤機器（秤量器・分包機など）の基本的な取り扱いができる。	説明・実習	90分×5	・秤量器（天秤・メートルグラス）の取り扱い説明 ・調剤機器の取り扱い説明 ・工夫が必要な散剤の方法 ①粒形が異なる散剤が配合されている場合 ②吸湿しやすい薬品が配合されている場合 ③配合変化が考えられる場合 ④賦形剤の添加が必要な場合 ①配合変化が考えられる場合 ②散剤と液剤が配合されている場合 ③賦形剤の添加が必要な場合 ・錠剤粉碎・カプセル剤の開封について ・実際の処方箋による調剤と注意する点のポイント

《服薬指導の基礎》

P320	◎自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取り扱い方を説明できる。	説明・演習	90分×2	・自己注射が認められている医薬品の種類について説明 ・自己注射が認められている医薬品の取り扱い方法の説明・ビデオ・実際の調剤 ・ロールプレイによる患者に対する説明 ・使用済み注射針の廃棄方法 ・処方せん上の交付の注意点（注射針・薬液はセットで交付が条件となる）
------	---	-------	-------	--

・代表的な内科疾患の処方解析（高血圧・糖尿病・高脂血症・消化性潰瘍など）

飯田店の指導計画 薬局実習方略

(1) 薬局アイテムと管理

《特別な配慮を必要とする医薬品》

項目	到達目標	学習方法	時間	指導内容
P105	麻薬・向精神薬などの規制医薬品の取り扱いについて説明できる。 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）	説明・見学	90分	【向精神薬】 ・向精神薬の種類とそれぞれの取り扱い、管理について説明し、保管方法を実際に見学・体験させる。 ・向精神薬の納収と検収、記帳義務、保管、廃棄、事故時の対応、年間報告などの管理業務を説明する。

《(3) 薬局調剤を実践する》

《計数・計量調剤》

P311	一回量（1包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。 一回量（1包化）調剤を実施できる。（技能）	説明・実習	90分	・一包化が必要とされる場合を説明する。（メリット・デメリット） ・一包化すべきでない薬品について例示し、その理由を説明する。（ザンタック錠 吸湿性など） ・一包化の調剤を見学させ、実際に処方せんに基づいて一包化調剤をさせる。（服用日の入力をする一包化・粒形の異なる散剤の一包化・散剤・錠剤と一緒に一包化の調剤） ・一包化が正確にできかた、自己確認させる。
------	--	-------	-----	--

これからくる実務実習学生に対する現時点におけるカリキュラムの作成

P313	散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能） 調剤機器（秤量器・分包機など）の基本的な取り扱いができる。（技能）	説明・実習	90分×5 散剤のみ	・調剤機器（秤量・分包機）の取り扱いを説明する。 ・注意・工夫が必要な散剤調剤の方法について説明し、見学させる。 (粒形が異なる散剤の配合時、吸湿性薬品の配合時、配合変化的考え方) ・秤量機を実際に使い、いろいろな場合の散剤を量らせる。 ・実際の処方せんに基づいて散剤調剤を行わせ、正確にできたか自己確認させる。（处方せん 10枚程）
P314	毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬などの調剤と取り扱いができる。（技能） (飯田店は麻薬除く。)	実習	90分	・向精神薬（1, 2, 3種）・毒薬・劇薬の種類、保管、取り扱い上の注意点の説明（特に投与日数・用量に規定があるもの サイレース錠 リタリン錠 ハルシオン錠など） ・実際に調剤方法を説明し、見学させる。 ・実際の処方せんに基づいて調剤させ、正確にできたか自己確認させる。

『飯田店の特徴』 飯田店は主に精神科の処方せんを扱っているので、精神科特有の薬剤の調剤を経験できることが特徴に挙げられる。また向精神薬1, 2, 3種が揃っているので、それ取り扱い方、調剤方法が学習できる。

高根沢店の指導計画 薬局実習方略

(3) 薬局調剤を実践する

《計数・計量調剤》

項目	到達目標	学習方法	時間	指導内容
P311	◎一回量（一包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。 ◎一回量（一包化）調剤を実施できる。（技能）	説明・実習	90分	・一包化が必要となる実例と理由を紹介 ・機械による自動分包と患者さんの服用しやすい一包化（日付を入れる、服用時点が連続する、錠数が変則な手書きによる分包等）
P312	◎錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる（知識・技能）	説明・実習	90分	・錠剤粉碎、脱力カプセルの可否についての判断の根拠となるデータの紹介と、可の場合調剤の実施、注意点の紹介
P313	◎散剤、液剤などの計量調剤ができる（技能） ◎調剤機器（秤量機・分包機など）の基本的な取り扱いができる（技能）	説明・実習	90分×5	・分包機、散剤監査システム等の取り扱い、調剤の実施 ・メートルグラス、投薬瓶の取り扱いと調剤の実施 ・混合できないものの理由とデータの紹介

《服薬指導の基礎》

P316	◎適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる（知識・技能）	説明・演習	